学校番号	111

平成３１年度　国語科

教科	国語科	科目	国語表現	単位数	2	年次	3
使用教科書	国語表現　改訂版　（大修館書店）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ

・作文等の演習を通じて、より豊かな表現力を身につけよう。
・演習中心の授業になるので、毎時間必ず出席してください。欠席、遅刻は大きな減点となります。
・評価は毎回の授業への取り組み（平常点）と、課題提出（実技点）により行います。
・実技系の科目（体育、家庭など）と同様の評価方法となるので特に注意すること。
・ノートの代わりにファイルを一冊用意して下さい。配布されたプリントをすべて綴じて提出します。

2　学習の到達目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。		伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
主たる評価方法	行動の観察 記述の点検 （プリント提出等）	行動の観察 （発表等のパフォーマンスの評価）	記述の確認及び分析 （記述後の原稿用紙等）		行動の観察 記述の確認 （プリント提出等）

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動主な評価の観点

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	1 書いて伝える	1 整った文を書く	○		◎		○	a:出席点および授業態度。 c:主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一、話し言葉と書き言葉の違いなど、整った文を書くために大切なことを理解し、活用している。 e:語句練習プリントの提出。	a:観察 c:作品 e:プリント
		2 わかりやすい文を書く	○		◎		○	a:出席点および授業態度。 c:長すぎる文を避け、わかりやすい文にするために、読点を適切に打ち、あいまいな文を避けることができている。 e:語句練習プリントの提出。	a:観察 c:作品 e:プリント
	2 小論文・レポート入門	1 小論文とは何か	○		◎		○	a:出席点および授業態度。 c:小論文の基本的な書き方を理解している。 e:語句練習プリントの提出。	a:観察 c:作品 e:プリント
		2 反論を想定して書く	○		◎		○	a:出席点および授業態度。 c:反論を想定して書く構成を理解し、それに沿って小論文を書けている。 e:語句練習プリントの提出。	a:観察 c:作品 e:プリント
	3 自己PRと面接	1 自分を見つめて	○	◎			○	a:出席点および授業態度。 b:経験から得たことや学んだことを発表し、また、他者の発表を通じて、自分の特長を発見している。 e:語句練習プリントの提出。	a:観察 b:発表 e:プリント
		2 効果的な自己PR	○	◎	◎		○	a:出席点および授業態度。 b:発表によって、自分の特長を端的に表現している。 c:事実やできごとをふまえて、効果的な自己 PR が書けている。 e:語句練習プリントの提出。	a:観察 b:発表 c:作品 e:プリント
2学期	3 自己PRと面接	3 将来の自分を考えよう	○		◎		○	a:出席点および授業態度。 c:・就きたい職業に就くために必要なことを調べ、それをふまえて、「将来の自分」について文章にまとめている。 e:語句練習プリントの提出。	a:観察 c:作品 e:プリント
	表現を楽しむ(第2部)	2 詩歌を楽しむ	○		◎		○	a:出席点および授業態度。 c:・さまざまな俳句の鑑賞をふまえて、表現を工夫しながら俳句を創作している。 e:語句練習プリントの提出。	a:観察 c:作品 e:プリント

3学期	表現を楽しむ（第２部）	総合演習 マイ新聞を作ろう	○		◎		○	a：出席点および授業態度。 c：着眼点、構成、文体、表現などに留意し、効果的な伝達方法を工夫した新聞が書けている。 e：下書きプリントの提出。	a：観察 c：作品 e：プリント

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」）に関わる観点には◎を付している。